



第18回総会を開催 — COVID-19 に対応して

9月12日、第18回アジアの新しい風総会は、新型コロナウイルス感染禍の中、三密を避けて昭和女子大学の大きな会議室に13名の参加者が間隔をあけて着席、例年とは異なる総会形式



〈今年限りの総会風景でありますように〉

で開催されました。規約に基づき、議決権のある正会員の書面での参加を含め三分の一の52名をはるかに超える出席を得て、定足数を満たしました。



〈決算報告〉

加納啓良理事長の挨拶から始まり、その後古海正子事務局長から、2019年度の事業報告と2020年度の事業計画案が示され、次いで伊藤莞爾理事から、2019年度の決算報告、2020年度の予算案、定款変更案が示され、大橋典子監事から監査報告があり、書面表決、委任状を入れて107名の承認を得ました。

総会終了後、2019年度「Iメイト・オブ・ザ・イヤー」の表彰式が行われ、受賞者の2人、原谷洋美さんと佐藤賢三さんには表彰状と記念品(『入門 - やさしい日本語』吉開章著)が贈呈されました。

役員人事

2020年7月の理事会で、理事の石河庄一さん、監査の谷口浩章さんの退任が承認されました。谷口さんは顧問に就任しました。なお、理事でアジア風創設者の上高子さんは理事長代行に就任し、いずれも9月12日の総会で報告されました。

＝「アジアの懸け橋」となる人材を育てる、ということ＝

発起人としてアジア風を立ち上げてから17年を超えました。「行く川の流は絶えずしてしかも元の水にあらず」という無常観を座右の銘としてきた者としては、事務局の若返りは課題のひとつでしたが、Iメイト学生OB・OGの中から「アジアの懸け橋」となってくれるような人材を育てる、という役割がまだ残されていると気づき、このような肩書でしばらく取り組むことになりました。



毎年50名を超える学生とマッチングしていますが、そのうち、アジア風の理念をよく理解し、会員として活動してくれる学生を見出し、育てることにみなさんのご協力を期待しています。「よどみに残るうたかた」にならないよう、目標に向かってポツポツ歩みます。

(理事長代行 上 高子)

佐藤賢三さん ～～ 2019年度 Iメイト・オブ・ザ・イヤー受賞の2人を紹介します ～～ 原谷洋美さん

入会動機：海外駐在中、色々な分野の方々から支援を頂き、少しでもその恩返しをし、また優秀な学生を支援して、将来のその国の発展に貢献して頂く一助としたい。

入会しての感想：ベトナム含めて多くの学生・先生と交流する中で、その国その国の問題点を克服し、よりよい将来に向かって進んでいるバイタリティーに感動させられた。

今後の意向：2019年度Iメイト・オブ・ザ・イヤーに選ばれ身に余る光栄です。



〈加納理事長から表彰を受ける佐藤さん〉

Iメイト交流は、お互いにコミュニケーションを密にし、多文化共生を前提に、主に日本語添削、発表の添削等活動を中心にしてきました。

近年、Iメイト学生が日本への留学、大学院への留学が増加傾向にあります。さらに日本企業へ就職を希望する学生も増えています。その事からも、専門分野、例えば経済分野等への関心が深まりつつあると考えます。また、日本文学、地理学等々も補足的に交流を進めて行きたいと考えています。

アジア風の会員は社会経験が豊かであり、学生は机上ですが専門分野の知識が豊富です。学生は、会員からの社会経験を学び、会員は最新の専門分野を学ぶことが出来ます。年齢に関係なく生涯勉強で、お互いに学ぶという事です。

そしてIメイト交流を通して人間的に成長して、将来に向けて、国を豊かに変えて行く事を 祈念しています。

(正会員 佐藤 賢三)

入会動機：高校上級生の上高子さんがNPO法人を創設されたこと聞き、どのような活動をする団体だろうか、海外に疎い私でも大丈夫だろうか、怖いもの見たさで早々に入会。

入会しての感想：実際に活動し始めたのは6年ほど前からで、なぜもっと早くにと少しもったいなかった気持ちがしています。「アジア風新聞」や『別冊Iメイト便り』の編集に携わり、会員もIメイト学生もそれぞれに個性が際立つアジア風を実感しています。

今後の抱負：グローバルと言われる地球規模になればなるほど、目の届かない片隅が忘れられる昨今、耳目を聴くしていきたいと思っています。その手助けがIメイト交流です。アジア風活動の第一義でもある添削に関しては落第生ですが、感性で学生と渡り合っていますと、学生達の鋭い世界感と洞察力に驚かされることもしばしばで、寄り添っているつもりが反対に寄り添って貰っているようです。それはなんとも心地よい交流です。



〈記念品も授与されました〉

彼・彼女らの文章は回を重ねるたびに長文になり、起承転結がはっきりしてきて、何気ない日常の出来事や趣味や、学生生活、自国の状況をレポートしてくれます。すると世界が少し動くのを感じます。

この度の受賞はありがたく面映ゆいですが一層の励みにし、これから先もどの大学のどの学生とも、お互いがきらりと輝き認めあえるような、ちょっと立ち止まってアジアの風や世界の風を聴けるような交流ができることを望んでいます。

(正会員 原谷 洋美)

I メイト勉強会をオンラインで開催しました

＝サンプル文を使って判りやすい勉強会に＝

6月20日、初めての試みとして、Zoomを使用したオンラインIメイト勉強会を、参加者12名で開催した。

雑談をしたり、顔と顔を会わせることのない物足りなさはあるものの、遠方の会員もリアル会議と同じように参加できるとや少数人数だったので交流のポイントやコツをじっくり聞くことができ、対面形式とはちがうオンラインならではのよさを感じたと、おおむね好評だった。

1. まず自己紹介をし、そこから見えて来たIメイト交流のキーワードを列挙すると
 - ・お互いの相手、国、文化への関心が継続の鍵
 - ・返事がなくても1か月に一度はメールを送る
 - ・自然体で受け入れる
 - ・ネットでは判らない生の情報を提供する
 - ・何かの記念とかの折々にメールするよう心がけている
 - ・学生の熱意だと感じる。日本語を学びたい、知りたいと思う学生は日本語力が上がる
 - ・以前に比べ、日本への興味が薄れて来ている
2. これらを基に、交流の継続の難しさについて意見交換をした。
 - ・人それぞれのやり方があり、相手を見守りながら、交流していくことがやはり大事。
 - ・アジ風会員は、SNS(Facebook, Lineなど)を使いこなせない、あるいは使う気持ちがない人が多いのが問題。
 - ・例えば wechatの設定方法、添付された文章をWordに変える方法など、使い方の講習会をしたらどうか。
 - ・気軽にわからない時に質問できるボックスのようなものがあれば良いのではないか、との提案。
3. 実際に2つのサンプル文の添削、討議
 - ・学生のレベルにあった添削
 - ・必ず直した理由をつける
 - ・言いたいことを読み取る
 - ・添削は、一つの正解ではなく、様々な解答が可能
4. 新入会員の感想

昨秋入会した私にとってすべて初めての事なので緊張しましたが、皆様の経験に基づいたご意見や添削上でのアドバイス等を伺い、大変参考になりました。

メールを続ける上で出来るだけ相手の学生の能力に合わせて添削する、自然体で返事が遅くても焦らない、メールの最後に質問を投げかけて次のメールのきっかけにする等のご意見に、納得。又



サンプル文を使っての添削例では様々な意見がでました。学生の個性を大事にし、能力に応じてあまり細かく直し過ぎない、直した箇所については、何故ダメなのかを伝える等は、特に初心者の方には良い勉強になりました。

上段左から 奥山寿子 武田 高 小林玲子 (敬称略)
2段左から 島村美智 川口祐子 松野芳夫
3段左から 荒井陽子 上 高子 阿食寛子
下段左から 伊藤春雄 西澤逸実 途中参加 斎藤利治

＝相手に合わせた添削や説明を心掛ける＝

第二回のIメイト勉強会は7月15日に同じくオンライン会議の形式で開催され、12名の会員が参加した。初めてZoomを利用される方もいたが、皆さん直ぐに慣れたようで、且つ12名という人数も討議するには丁度良いということでよい評価を得た。

以下、参加者から頂いた感想の中から抜粋して報告する。

- ・Iメイト交流とは「国や世代を超えた人と人との交流・相互理解」という大変奥深いものと感じた。異国の若者とメールを通じて信頼関係を築いていくことはとても難しいが、皆さん色々工夫されていて参考になった。
- ・Iメイトは未経験だが自分の孫のような若者が相手、しかも急速に経済力をつけているアジアのエリート達である。日本語を教えるというより、彼らの生活ぶりを教えてもらったり、時には人生相談の相手になったりできたら、と思った。
- ・「もし自分が英語の添削をしてもらい立場なら、何故このような修正をしたのか理由が欲しい」という意見があり、自分が添削される立場だったらどうして欲しいか、と考えた。日本語能力にもよるが、相手に合わせた添削や説明を心掛けたい、と思った。
- ・自分の経験から、ネイティヴならこの場面で実際にどのように言う／書くかを教わると、次に必ず使ってみようとなり、且つ実際にうまく伝わると嬉しくて、この方法で覚えた表現は自分のパターンとして定着する。留学中に文法的には合っている相手に通じないという苦い経験を積むこともあるが、実際の場面で使う語彙と表現パターンを持っていれば、きっと感謝してもらえと思う。
- ・今までの12名の学生との交流を経て、最初に取り決めておくことが重要と考えている。
 - ① 交流開始時点で、相手の希望を尋ねてメールの回数や添削の必要の有無を確認する。
 - ② 受信への返事はお互いに行う。但し、レポートや試験等で忙しいときは、その旨を1・2行でよいので必ず返事をする。
 - ③ 日本語に慣れるまでは、一文章に複数事項を記述しないよう指導する。
 - ④ 添削箇所には赤字などでリマークする。
 - ⑤ 当初はできるだけ分かりやすく解説するが、要領が分かってくれば簡略に済ませる。

また、参加者からのいくつかの提案を紹介する。

- ・Zoomの画面上の名前が本名でない方もいたので、ホストの方で名前を変えるか、自分で変更してもらった方がよい。
 - ・自己紹介で話す時間と内容をあらかじめ提示して置いた方がよい。
 - ・Zoomでのメリットがよく分かったので、IメイトOB・OGと会員との小規模な交流会で意見交換することもよいと思う。



上段左から 古海正子 三木京子 岡村 一 (敬称略)
二段左から 中村泰寿 斎藤利治 上 高子
三段左から 園田成和 鈴木一美 畑 さち子
下段左から 浅山久美子 石田義夫 稲村由佳里

＝事務局からの案内があれば、時間と場所を選ばないオンライン交流会にぜひ参加してください＝

～若く国際色豊かなサポーターの登場～

2020年度から下記の3名が、アジ風の運営や技術面でのサポーターとして協力してくれることになりました。いずれもアジ風の元Iメイト学生で、すでに社会人として活躍しています。

3人とも仕事の関係でITに詳しく、主に英語でコミュニケーションをし、生活言語は日本語だそうです。事務局では若い人のサポートの必要性をずっと感じていただけに、彼らの協力はとてもうれしく思います。HPのスタッフ欄に3人のコメントが出ていますので、そちらをご覧ください。

これからこの3人に続く若いサポーターが出てくれること、さらにはアジ風の事務局を担ってくれる若い人が出てくれることを願っています。
(理事 奥山 寿子)

チャン トウ チャンさん 製薬会社社員



京都大学に留学して4年間で京都で過ごしました。アジ風との関係は長く、在学中からアジ風のいろいろな活動に協力をお願いしてきました。若者の立場から、アジ風への提言やアドバイスももらい、最近ではアンケートの作成から集計までを担当してくれています。

ジャン ミャオさん 東京大学研究員



2015年に清華大学大学院と東京工業大学大学院の合同プログラムで1年間日本に留学。帰国して清華大学大学院を卒業後、再来日して東京大学博士課程を終え、今年卒業しました。在学中からアジ風のイベントにも積極的に参加しています。架け橋の先輩として、これからもサポーターとしての活躍を期待しています。

ジ イさん 外資系IT企業社員



北京大学を卒業して、東京大学大学院留学中にアジ風と出会い、交流が始まりました。卒業後は日本で就職し、仕事の傍らアジ風のIT相談役、イベントのサポーターとして活躍してくれています。



～アジ風奨学生を募集しています～

Iメイトのみなさんは、アジ風奨学基金をご存じですか？

交流4校の学部を卒業したIメイト学生が、日本の大学院へ進学する場合、奨学金を支給する制度で、5年前に創設されました。「アジアの懸け橋になってくれる人材の育成」を目指しています。

研究生の1年間と修士課程の2年間、最大3年間で月額7万円を支給するものです。支給額は十分ではありませんが、これまで4名の修士（専攻は問いません）をサポートしてきました。写真をご覧ください。4人ともIメイト会員とアジ風事務局の親身なサポート、たとえば来日後の宿舎やアルバイト探し、修士論文の母語者チェック、ホームステイの体験、アジ風の活動参加などが大変うれしかったと声をそろえています。また彼らは、後輩のために質疑応答やアドバイスなど、協力を惜しまないと約束してくれました。

今年度はCOVID-19の影響で、募集を半年遅らせました。また来日後4か月間は、月額5万円の追加生活支援金を支給する予算を取りました。もし、来年4月から日本の大学院へ進学したい、と思う学生がいいたら、ホームページの http://www.npo-asia.org/activity/student_support/kikin または「アジアの新しい風奨学基金」で検索して詳細を確認し、関心を持ったらずは事務局へご連絡ください。

局へご連絡ください。

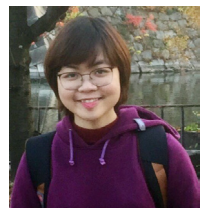
応募を考えている皆さんへ。大学の先生やパートナーのIメイト会員に相談してもいいですよ。ご連絡を期待しています！

(アジ風奨学基金担当理事 上 高子)



手前から順に
第一回～第三回奨学生と筆者

- 第一回 仲村クスマー（旧性タイニコン）
タマサート大卒→琉球大院 修士終了
- 第二回 王鶴 清華大卒→一橋大院 修士終了
現在日本企業に勤務
- 第三回 王雋淇 清華大卒→一橋大院 在学中



第四回奨学生
ド・イン・トゥ
貿易大卒→
神戸大院修士修了

会員紹介

西澤 逸実さん

今回の会員紹介インタビューはZoomで行った。2人だけでは寂しいので奥山理事にも参加いただいて3人の座談会となった。

話し始めて間もなく、出身学校の話となったが、西澤さんは筆者と同じ大学、同じ学部の5年後輩と分かり、がぜん近親感が沸いて話が盛り上がった。

卒業後に進んだ道は違ったが、当時若者だった我々は共に“海外で飛躍する”夢を抱いていた。西澤さんはベルリンの壁崩壊の1989年から1992年までをドイツ・フランクフルトで、アジア経済危機の1997年から2001年までをシンガポールで過ごされた。長い人生を振り返って、仕事もプライベートも最も張り合いのある時期だったねと杯を挙げた。今の若者たちは海外など行きたくないという人も少なくないと聞く、どうしたものか。

西澤さんがアジ風に入会したきっかけは、2年前の退職を機に“アジアと若者”をキーワードに参加できそうなNPOを検索し

たところ、アジ風のホームページに遭遇した由。入会後次々とIメイトもでき、今は清華大学架け橋留学生2名（1名は来年来日予定）、清華大学学部生、貿易大学生、タマサート大学生、パジャジャラン大学と、実に同時並行で6名と交流を続けているようだ。

特に思い出に残る交流は昨年5月の清華大学訪問だったが、北京の青い空、広大なキャンパス、大学関係者の温かいおもてなしなどが素晴らしかったとのこと。せっかく日本に来た留学生が日本人学生と友達になれないという話を聞くが、日本の若者があまりに満たされてしまい、ハングリー精神も無くなった結果、異なる文化に興味を持たなくなっているからではないかと問題提起された。アジ風の交流をベースにアジアの若者と日本の若者が交流を深めることができるなら、そしてそのことに少しでも役立つことができるなら嬉しいことだと言いながら、また杯を挙げた。

(インタビュアー：園田 成和)





この度、島村美智さんから貿易大学のコーディネーターを引継ぎました。大変微力ながら皆さまの交流のお役に立てるよう尽力しますのでよろしくお願い致します。貿易大学では国内のコロナ感染抑制により約半年間に及んだオンライン授業から、通常授業へと日常生活が戻っています。今回のIメイト交流では、ベテランの古畑仁一さんと、PCメールからツールをメッセージャーへ移行した藤原環さんをご紹介します。

(貿易大学Iメイト交流コーディネーター 小林 玲子)

古畑仁一さんとチャン・カイ・リンさんのメール

リンさん → 古畑さん 2019年11月16日

こんにちは！メールを送っていただきありがとうございます。



これからあなたのIメイトになり、お互いにメールを書きあうのでよろしくお願いします。私は日本語がまだ上手じゃなくてごめんなさい。間違えがあれば直接教えていただいてもいいですか。わたしに何を期待していますか。できればお手伝いしようと思っています。ベトナムとか若い人の傾向とかを説明できます。日本人と話す経験が少ないので私から返事がちょっと遅いですね。ごめんなさい！

古畑さん → リンさん 11月17日

あなたの写真も拝見しました。プロのカメラウーマンのようですね。Marketing Clubにも所属しているようですが、将来はビジネスの世界で仕事をしたいのですか？メール交換を通して少しずつ日本語を勉強していきましょう。外国語で文章を書くのは難しいのは私も経験しています。短い文章でもいいですのでご返事をお待ちします。

リンさん → 古畑さん 11月30日

日本の冬はとても寒いと思います。お体に気をつけてください。

今月は病気で病院へたびたびチェックに行きました。それに仕事と勉強がうまく行かないことがありました。解決しようしていますが、きちんと返事を書く時間も少なく…本当にごめんなさい！

メールをチェックしてくれてありがとうございます。私も吉本ばななの小説がすごく素晴らしいと思います。

病気がまだ治りません。ストレスも溜まっています。アドバイスをしてもらえますか。

古畑さん → リンさん 12月3日

リンさんが病気だと伺い心配しています。長引く病気でなければ良いのですが。勉強や仕事で忙しくてストレスが溜まり、それが身体に影響を与えているのでしょうか。頑張り屋のリンさんはストレスが溜まりやすいのかもしれませんが。ストレス解消法のWEB情報がありましたのでお知らせします。参考にいただければ嬉しいです。(略)

ご返事は急ぎませんので病気が治ってからください。お大事になさってください。

藤原環さんとブイ・ラン・アインさんのメール

藤原さん → アインさん 2020年2月13日



世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大してしまいましたね。ご家族のみなさんも無事に過ごしていますか？

日本ではSNSを使った外出自粛への呼びかけが今ムーブメントになっています。ミュージシャンの星野源は外出自粛へのメッセージを弾き語り楽曲でSNSに投稿しました。

アインさん → 藤原さん 4月17日

お姉ちゃん、日本のニュースを送ってくれてありがとうございます。その歌が本当にうまいですね。その歌の歌詞が好きです。

現在の世界情勢を考えると、とても心配です。私はすべてが正常で良い状態に戻ってくれることを願っています。お姉ちゃんがきちんと健康管理を心がけてくださいね。

現在ベトナムでは、政府と人々が満場一致で(環さん添削：一丸となって)この病氣と闘うとしているため、医師と兵士は昼も夜も家族から遠く離れて、一生懸命働いていました。そういう人のことを考えると、とてもありがたいと思います。

テトから今まではずっと休みでした。オンラインで勉強しています。初めて使うので最初は少し難しかったのですが、今では慣れてきました。

藤原さん → アインさん 4月22日

勉強に忙しい中でもメールを返してくれてありがとうございます。メールを軸に交流することは丁寧できちんとした日本語能力がつきますが、これからはラインやメッセージャー等で楽しく回数を多く交流していくことに切り替えるのはどうでしょうか？アインさんの負担にならないように、楽しく日本語で交流できたらいいな。



アインさん → 藤原さん 4月26日

ベトナムは7日間連続で感染者数は全く増加していません、皆んなが安心になります。私は間もなく大学へ行くことになります。友達に会えるですが、試験がたくさんあり、ちょっと怖いです。(略)

私はインターンシップのホテルを決められました。山形県でのホテル亀屋へに行くことになりました。今、ちょっと時間がいいいならお姉ちゃんとスカイプで話したいと思います。日本語が上手じゃないけど、もっと頑張ります。

*編集部註：残念ながら来日できませんでした。

今後の行事予定

*詳細はHPを参照

9月～11月

各大学のIメイト学生と会員による
オンラインミーティング

10月～11月

各大学のIメイトマッチング

2021年

新春交流会 詳細は未定

・・・編集後記・・・

万葉集巻1－16の長歌は「春山万花の艶と秋山千葉の彩(いろ)」とではどちらが好きですか」と問われた額田王が「秋山そ我は」と歌を以て判(ことわり)ります。

なんの迷いもなく集まることができた昨年秋の鎌倉Iメイト交流会の当日、タマサート大学留学生に感想を依頼しました。すると参加の3人でパーの手の平を3回くらい素早く返してまた返してタームさんに決まりました。初めてみる形態に首を傾げながら聞くと、3人だからとの答え。タイでは2人で勝負を決るときにジャンケンポンをし、その前にグループ分けをするとのこと。「手の平を返す」はがらりと態度を変える負のイメージですが、手の平もさまざまな使い方や意味を持ちます。こんな小さな発見も交流会の楽しみの1つです。一刻も早くコロナ禍が終息し、顔と顔を合わせてどちらが好みですかと問うたり、愉快なお国自慢を見せあえる、新鮮な交流会を持つことが叶いますように。(原谷 洋美)